

# 次期名古屋市社会福祉協議会地域福祉推進計画 第1回策定委員会 会議録

## ■日 時

平成22年9月1日（水）10:00～11:40

## ■場 所

名古屋市総合社会福祉会館 7階 中会議室

## ■参加者

18名（詳細は、別紙1のとおり）

## ■内 容

進行：富田事務局長

### ○会議の公開について

富田事務局長から、本会議は名古屋市社会福祉協議会情報公開規程第17条の規定にもとづき、公開の対象となるが、傍聴人はいないとの説明があった。

### ○挨拶

鈴木副会長から挨拶があった。

## 1 委員の紹介

■富田事務局長から資料1にもとづき策定委員会の委員の紹介があった。

## 2 委員長及び副委員長の選出について

■次期名古屋市社会福祉協議会地域福祉推進計画設置要綱第3により事務局から平野隆之委員の推薦があり、全会一致で平野隆之委員が本委員会の委員長として選出された。また、副委員長については、同要綱により委員長が指名することとなっており、平野委員から市民生委員児童委員連盟理事長の上村委員を副委員長への指名があった。

■平野委員長及び上村副委員長から挨拶があった。

■富田事務局長から、以降の進行は平野委員長へお願いするとの発言があった。

(以下、平野委員長による進行)

## 3 次期名古屋市社会福祉協議会地域福祉推進計画の策定体制及び策定スケジュールについて(案)

■平野委員長は事務局へ説明を命じ、地域福祉推進部の相澤部長から、事前に送付している資料のうち参考資料の差し替え及び以下の資料の訂正の説明があった。

《資料の訂正》

- ・資料 5 (p 4)  
    (誤) 1次 (H6~12) [6年間]  
    (正) 1次 (H6~12) [7年間]
- ・資料 9-2 (p 15)  
    (誤) ⑩の表中の H22/6/16 H22/6/21  
    (正) H21/6/16 H21/6/21

■地域福祉推進部の相澤部長から、資料 3 及び 4 にもとづき策定体制の説明があった。

《説明の要旨》

- ・策定委員会の下に作業チームを設置。
- ・6月から準備段階として「準備作業チーム」において現状と課題を整理。
- ・スケジュールは、平成23年3月に計画案を提示し、同年5月に公表。
- ・作業チームの特徴は、委員は手あげ方式で募集したこと。前回の計画に比べ、地域包括支援センターや介護保険事業所の職員等の多様な職種の参加を得た編成となっていること。

■平野委員長から委員に対して、地域福祉推進部の相澤部長の説明に対して意見を求めたが、委員からの意見はなく、承認された。

■平野委員長から、これまで準備作業チームは小松教授におまかせしていたので、後ほど、研究的な視点も入れながら作業の報告をいただきたいとの発言があった。また、明石委員は所用のため途中退席となるため、明石委員へ発言を求めた。

○明石委員) 東区でイベントがあり、本日は30分で退席するため、事務局から送付された事前資料を拝見して事前意見として資料を出させてもらった。策定委員となり計画策定に関わることができ、大変うれしく思うし、社協職員に対しては期待している。今後、課題の解決に向けて議論していくが、このように意見を出すことで参考になればよいと思った。事業を実施することだけで自己満足とならないような計画を作っていかなければいけないといった使命感を持っている。

○平野委員長) これからイベントがあると聞いたが、今日のイベントはどのようなものか。

○鬼頭委員) 東区社協第2次地域福祉活動計画に関する事業報告や講演があり、毎年、300名前後の参加者がある。

[明石委員、退席]

## 5 次期名古屋市社会福祉協議会地域福祉推進計画の策定準備作業における検討内容のイメージ及びこれまでの作業の経過と内容(案)

■平野委員長は議題4の前に議題5について事務局に説明を命じ、地域福祉推進部の相澤部長から、資料7及び8にもとづき、計画策定における大まかなイメージとこれまでの経過の説明があった。

### 《説明の要旨》

- ・社会的な背景として、地域の課題は身近な地域で解決するという流れがある。
- ・内部的な背景として、個別支援が少しずつ具体化されてきている。個別支援とは、生活のしづらさを制度や施策だけで解決できないものもあるため、そういったものも含めて社協が窓口となり適切な場所へつなぐことも含んでいる。
- ・第3次市社協地域福祉推進計画は、自己評価としては、80点ぐらい。
- ・この計画で目指したいのは資料7にある5つのキーワード。それを目指すため、また、事前に社協職員からの意見を徴収し、それらをもとに検討テーマを設定した。
- ・これまでの経過について、3つのチームで分かれて作業を進めてきたが、第3回目には策定委員の市民活動団体の方との意見交換の場を設けた。

○江口委員) 仕事で社協職員と話しをする機会はあるが、準備作業チームという場で一緒に考える機会を持ててよかった。

○平野委員長) 個別支援に着目しているが、民生委員の立場としてのコメントをいただきたい。

○上村副委員長) 最近、民生委員の活動がしにくくなった。最近のマンションはセキュリティがあるため、対象の高齢者となかなか会うことができないし、会いたくないという人もいる。そういった方をどう支援していくかを行政とともに検討している。

○平野委員長) 東区では、行政から孤独死に対する施策をモデルで受けている。また、シルバーパワーを活用した地域力再生事業(以下、「シルバーパワー事業」という。)では4区8学区で地域福祉推進協議会と協力して事業展開しているという状況がある。

■平野委員長は、小松委員に対し、これまでの準備作業チームの検討状況の説明を求め、小松委員から資料9-1にもとづき、説明があった。

### 《説明の要旨》

- ・これまで4回の準備作業チーム及び全体会で検討してきたが、3回目のときに、明石委員、織田委員、江口委員、竹本委員に参加していただき、社協のやっていることはわかりにくい等、外から見た社協の課題を指摘いただいた。

[検討テーマ①]

- ・個別ニーズの把握から解決の仕組みが確立されていないというのが大きなテーマ。
- ・明石委員からは、具体的な事例をあげながら、困っている方がどこに行けばよいのかという仕組みがないという指摘をいただいた。
- ・地域の中でどの場所で情報を共有し、誰がコーディネートするのかをこれから検討していかなければいけない。

[検討テーマ②]

- ・学区担当制を敷いているが、検討テーマ①のような現状に対してどうしていくかといった課題が出された。
- ・地域福祉の担当や地域包括支援センターの担当等の部門間の連携についての課題が出された。

[検討テーマ③]

- ・課題になったのは、うまくいっている地域をどのような他の地域に伝えていくか。
- ・社協職員が地域にどう関わっていけばいいのか職員自身が整理できていない。
- ・シルバーパワー事業を通じて課題として出てきたことを整理した。
- ・社協側からみるとボランティアがいないとの議論があったが、織田委員からは、地域にはたくさんの特技を持ったボランティアがいるとの指摘があり、社協からは見えていない部分があるのではないかと感じた。
- ・明石委員からは、住民が社協に協力しているが、結果がどうなったのかというフィードバックがないという指摘があった。いかに可視化していくかといった課題があがっていた。

[検討テーマ④]

- ・地縁団体とテーマ団体の相互理解の場が作れていないというのが課題の中心。
- ・江口委員からは、NPO法人と地域福祉推進協議会の連携がうまくいった事例の紹介があった。また、想いを共有することが大切だという指摘があったが、社協職員は想いを語り合うことができていないのではないかと感じた。

[検討テーマ⑤]

- ・キャリアアップの理想のモデルを作ったが実態があっていないので再考が必要という課題があげられた。

[検討テーマ⑥]

- ・社協が地域に働きかける戦略性に欠けているという課題があげられた。
- ・竹本委員からは、避難協定等、自分の団体ではできないことを社協にやってもらえないかという提案があった。

以上、課題としてあげられたことを中心に資料9-2の補足をさせてもらった。一言で言うと、地域の中に多様な活動をしている人が増えてきて、そ

れがちぐはぐになっている。それが課題となっているので、想いを共有する場をどう作っていくのか、社協がどうマネジメントしていくかがポイントになってくると思う。

■平野委員長から、1回目の会議としては、課題が多いと思うが、委員の方のご意見をお聞きしながら議論をしたいとの発言があった。

○寺尾委員)「地域」という文言が多く使われているが、老人クラブ活動における地域の考え方、広さとは違った基準で使われている。従って、「地域」とはどの範囲を指しているのか。明確にしてほしい。老人クラブの場合は、会員相互に目の届く範囲(小学校校区よりは狭い)と、決められている。範囲が狭いほど目はよく行き届く。地域福祉の先頭に立って動く、リーダーになってくれる人が少ない。この解決策の一つにと鯉城学園が作られている。今や5,000人を越える卒業生を、地域福祉のリーダーにもっと活用すべきだと考える。

○野瀬委員)行政は地域から離れようとしているが、社協は地域と連携しようとしているのを感じて、自分自身意欲が湧いた。一生懸命やっていたでいてるのがわかり、感謝をしたい。

○織田委員)資料はよくまとまっているが、「ケース」や「エリア」等、カタカナ英語が多い。また、シルバーパワー事業においては、地域には若い力があるため、あまり世代を限定せず、取り組んでほしい。区単位で課題があると思うので、区の特성에応じた支援ができるような計画になればと思う。

○平野委員)シルバーパワー事業の財源は国(厚生労働省)の地域福祉課がもとになっているが、予算を得るにはそれらしい名称をつけて取り組まなければいけないという現状もある。織田委員は、地域の範囲をどう考えているか。

○織田委員)内容によると思う。その時々を決めていけばよい。

○三島委員)感想が3つある。①シルバーパワー事業について。メインターゲットは団塊の世代だとしても、子どもがいれば楽しいし、男性だけでなく女性もいれば楽しくなる。メインターゲットは設定しつつも、多様な参加に目を向けてほしい。②職員の力量の向上について。想いを共有できる場づくりができる職員の力量の向上を目指してほしい。

○平野委員長)三島さんにとっての場づくりのイメージは。

○三島委員)いろいろな形があると思うが、新しく場を作るというよりも既存の場をうまく活用したらどうか。例えば、地域の行事の中で、出会っておしゃべりできる要素を増やすなど。

○三島委員)3つ目の感想だが、③OJTについて。自分(職員)の自由な時間に地域の活動に入って、1つのものを一緒に作っていくという意識が出てくるとよいと感じた。

○大曾根委員)昨日、準備作業チーム全体会に参加したが、それも含めて感

想が3つある。①個人情報保護法について。プライバシーを守るということも大切だが、情報共有をしていく上で個人情報の問題をどう乗り越えていけばよいのかを考えなければいけない。まだ、その解決策を十分議論できていない。②地域包括支援センターや介護保険事業を社協が取り組んでいる意味がどこにあるかわからない。この計画の中で明確にしていく必要がある。③成年後見あんしんセンターが10月1日から始まる。市民後見人をバックアップする体制をどう作っていくか。

○平野委員長) 次回の策定委員会で個人情報の問題や成年後見あんしんセンターについて、大曾根先生からレクチャーを受けてもよいと思う。

#### 4 名古屋市社会福祉協議会地域福祉推進計画のこれまでの内容と主な成果、次期計画の名称及び計画期間について(案)

■平野委員長は事務局に説明を命じ、地域福祉推進部の相澤部長から、資料5及び6にもとづき、1次から3次までの計画の成果、次期の計画の名称及び計画期間について説明があった。

《説明の要旨》

- ・計画の名称は、これまでの積み上げが名称からもわかるように「第4次名古屋市社会福祉協議会地域福祉推進計画」としてはどうか。
- ・計画期間は、名古屋市地域福祉計画や区社協地域福祉活動計画との関係を考慮し、4年間としてはどうか。

[上村委員退席]

■平野委員長から委員に対して事務局の提案でよいかとの確認があったが、委員からの意見はなく、承認された。

■平野委員長は、最後に竹本委員へ感想を求めた。

○竹本委員) 想いを共有する場という議論があったが、そういった場の1つとしてイベントの告知をさせていただきたい。(チラシを配付) [防災フェスタ2010 9月3日(金)名古屋テレビ塔、9月4日(土)セントラルパーク周辺]

■平野委員長から、本日の議論は作業チームへ持ち帰って、作業をしたい、また、本日の会議で発言できなかった内容については、事務局までご連絡をいただきたいとの発言があった。

■最後に富田事務局長から委員へお礼を述べ、会議は終了した。

(文責：名古屋市社会福祉協議会 地域福祉推進部 高須)

## 社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会

## 次期名古屋市社会福祉協議会地域福祉推進計画策定委員会 出欠一覧

平成22年9月 1 日

(敬称略)

	区分	氏 名	所属・役職	出欠
1	地域福祉・地域活動 関係団体	浦 野 三 男	西区社会福祉協議会会長	○
2		上 村 成 良	市民生委員児童委員連盟理事長 (千種区社会福祉協議会会長)	○
3		鬼 頭 正 男	市区政協力委員議長協議会議長 (東区社会福祉協議会会長)	○
4		松 田 曾 明	市ボランティア連絡協議会会長	○
5		明 石 雅 世	みんなで創ろうわがまちひがし 代表	○
6	社会福祉関係団体	寺 尾 登	市老人クラブ連合会会長	○
7		相 野 田 克 司	市障害者団体連絡会会長	○
8		野 瀬 武 敬	市子ども会連合会会長	○
9	保健医療関係団体	細 川 孝	市医師会会長	欠
10	社会教育関係団体	加 藤 玲 子	市地域女性団体連絡協議会会長	欠
11	社会福祉関係施設	尾 関 英 浩	市老人福祉施設協議会会長	○
12	市民活動団体	織 田 元 樹	特定非営利活動法人ボラみみよ り情報局代表	○
13		三 島 知 斗 世	特定非営利活動法人ボランタ リーネイバーズ調査研究部長	○
14	市地域福祉計画策定 委員会市民公募委員	江 口 こ の み	特定非営利活動法人わが家流子 育て応援団ふりあん代表	○
15		竹 本 初 江	なごや防災ボラネット	○
16	学識経験者	平 野 隆 之	日本福祉大学社会福祉学部教授	○
17		小 松 理 佐 子	日本福祉大学社会福祉学部教授	○
18		大 曾 根 寛	放送大学教授	○
19	社会福祉関係公務員	伊 東 高	市健康福祉局高齢福祉部長	(代理出席) 棚橋課長
20		松 本 一 彦	市子ども青少年局子ども未来部 長	欠
21	市社協役員	鈴 木 加 代 子	市社会福祉協議会副会長兼常務 理事	○